

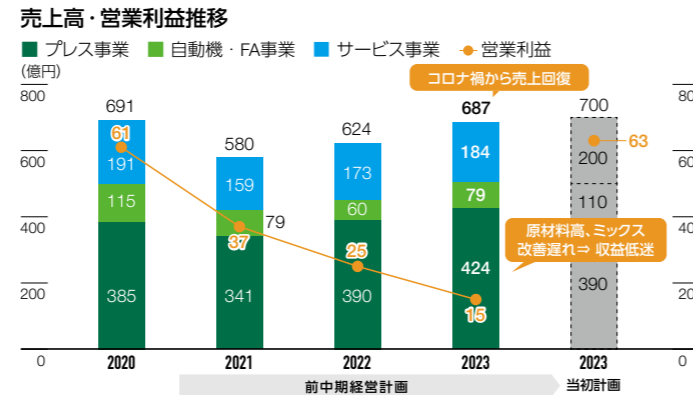
前中期経営計画の振り返り (2021年3月期～2023年3月期)

前中期経営計画「AIDAプラン523」進化概要

経営ビジョン	環境・省エネ・技術進歩を支える先進企業として社会に貢献する
経営方針	価値創造と社会貢献により企業価値を向上しステークホルダーとともに持続的成長を目指す
基本施策	技術革新・経営基盤強化・収益力向上

数値計画と実績(振り返り)

2023年3月期計画	→	2023年3月期実績
売上高 700億円	→	売上高 687億円
営業利益 63億円	→	営業利益 15億円



前中期経営計画(2021年3月期～2023年3月期)では、新型コロナウイルス感染拡大、サプライチェーンの混乱、ロシア・ウクライナ問題、エネルギー不足、物価高騰、半導体や電子部品不足等、ビジネス環境は極めて厳しい状況にありました。

そのような状況のもと、当社はEV需要拡大を捉えた施策を着実に展開し、EV駆動用モーターコア向け高速精密プレスやEVボディ向け大型プレスの受注を大幅に伸ばし、また、自動機・FA事業においては、高速精密プレス周辺装置の内製化実現、自社製搬送装置Dマットの複数受注獲得成果を上げました。

これにより、最終年度の売上高は目標の700億円をほ

ぼ達成しましたが、利益面では、原材料費や燃料費等の高騰、大型プレスの採算悪化に加え、サプライチェーンの混乱、電子部品不足、リソース不足等により利益率の高い高速精密プレスの長納期化やサービスの売上が伸び悩み、当初想定していた事業ポートフォリオ改善やプレス製品ミックス改善という収益構造転換が進まず、最終年度の営業利益目標の63億円を達成することはできませんでした。

また、技術革新においては、高速精密プレス周辺の自動化装置の商品化を実現したものの、今後成長が期待されるデジタル化や環境・エネルギー関連のイノベーションに対する一層の取り組み強化が課題として残りました。

前中期経営計画の技術革新 — EV駆動用モーターコア専用の高速精密プレスラインの商品化を実現



ラインの核となる高速精密プレスと、コイル材を供給するアンコイラーや転積装置、サーボ駆動式スクラップカッター等の周辺装置も組み合わせたシステムの商品化を実現し、さらにプレス機械の前後で材料の送り出しや引っ張りを行うフィーダーには、自社開発のフィーダー専用小型高トルクサーボモーターを搭載しました。これにより、送り速度は従来比30%増の毎分130メートルを実現し、生産性向上への貢献が可能となりました。

新中期経営計画 (2024年3月期～2026年3月期)

新たな中期経営計画(2024年3月期～2026年3月期)では、「社会課題の解決により企業価値を向上しステークホルダーとともに持続的成長を目指す」という経営方針に基づき、前中期経営計画で認識された課題も踏まえ、①事業ポートフォリオの変革、②新たな付加価値の創出、③経営基盤の強化、④環境対策・社会貢献、⑤資本政策という5つの基本施策を展開し

ます。これらの施策の展開により、お客さまや社会の課題解決を進めつつ企業価値を向上させていくという好循環を生み出すことで、お客さま、従業員、協力会社、地域社会、ビジネスパートナー、株主・投資家といったステークホルダーとともに持続的な成長を実現していきます。

中期経営計画経営方針

社会課題の解決により企業価値を向上しステークホルダーとともに持続的成長を目指す

